

「自治体の役割：英語教育改善のための意識改革」

静岡県総合教育センター 高等学校支援課 塚本 裕之

【CONTENTS】

- 1 CAN-DO リストの活用に向けての取組
- 2 共通参照枠に基づいた英語教育改善
 - (1) 共通参照枠の意識化（静岡県が考える CEFR）
 - (2) 授業づくりの質的転換への意識化



静岡県「主体的・対話的で深い学び」リーフレット

1 CAN-DO リストの活用に向けての取組

- **CAN-DO リストを作成する目的**：「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」例) 指導方法や評価方法の工夫・改善が容易になる 等
→これだけのメリットがあるのに作成しても活用されない。
- **三位一体の改善**：「CAN-DO リスト（目標）」「年間指導計画（計画）」「学習指導案（実施）」の様式を変更。できるだけシンプル。様式間 Copy Paste→繋がりをを持たせる。
- **「CAN-DO リスト」の改善**：静岡県「CAN-DO リスト作成の手引き」を準備。CEFR の考え方を取り入れた TO-DO リストの作成・提出依頼。（全ての公立高等学校）（裏面）
→CEFR を軸にすることにより：

- ①小・中・高等学校で地域連携による一貫性のある到達目標の作成が可能になる。
（文部科学省委託事業「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」）
- ②社会における英語力評価との同期・連続性が可能となり、生徒の学習や自己実現の幅を計画的・効率的・永続的に広げることが期待できるようになる。

2 共通参照枠に基づいた英語教育改善

(1) 共通参照枠の意識化（静岡県が考える CEFR）

- **共通参照枠の定義**：「県内英語担当教師が持つ、英語のレベルを測るときに照らし合わせるができる共通の物差し」。
→県の取組として、悉皆研修等を活用し、演習等を通して共通参照枠を再確認。CEFR A2 と B1 の違いを大切にする。
→教材選定や授業計画を行う際は、この共通参照枠を意識して、生徒の「興味・関心」「実態」「習熟の程度」を考慮する。

(2) 授業づくりの質的転換への意識化

- **授業づくりの質的転換**：「主体的・対話的で深い学び」、「わかる」から「できる」授業へ→静岡県リーフレット「授業設計4項目」（別紙）、1枚ポートフォリオ
- **授業実践から見える課題（Convergent と Divergent）**
 - ① **課題**：授業・単元を貫く「解決したい課題や問い」の作成に慣れていない。
原因：無意識的に自作ハンドアウトをより分かりやすいように作成。「受容トピック」から「産出トピック」を抜き出すことに慣れていない。
 - ② **課題**：多様な答えが生まれる授業（Divergent）に求められる支援に慣れていない。
原因：「教科書で教える」という考えから、自作ハンドアウトの準備に時間がかかり、実際の授業にて起こりうる生徒の反応や答えに対して行うべき支援について考える余裕がない。（follow-up question, recasting, feedback）

課題解決のためには、教師はより一層の「生徒理解」と「できる」に主眼が置かれた「上質な教材」の活用を通して、Divergent な授業実践の経験値を高めることが大切になる。

様式1

学校番号() 静岡県立/〇〇市立/〇〇〇高等学校 平成30年度版 学習到達目標(CAN-DOリスト)

CEFR ステージ	読むこと(Reading)	話すこと(Speaking)		書くこと(Writing)	想定時期	達成率		
		やりとり(Spoken Interaction)	発表(Spoken Production)			内部	外部	
B1	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題に関する比較的短い記事やレポート資料から、必要な情報を読み取ることができる。 短い物語を読んで、あらすじを理解することができる。 社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できる。 英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共の場所(店、駅など)において、自分の問題を説明し、解決することができる。 身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができる。 身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができる。 身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができる。 関心のある分野のテーマに関する記事やレポート資料の概要や要点を説明することができる。 知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから構成された文章を書くことができる。 関心のある分野の話題について、その内容を伝える上で最適と思われるコミュニケーション手段により、友人に伝えることができる。 				
Stage7	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを取るための様々な手段について、その長所・短所等が話題となっている対話を聞き、要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> OSNSが人のコミュニケーションの取り方にどのような影響を与えるのかについてのレポートを読み、概要や要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「テクノロジーの進化がコミュニケーションに与える影響」に係る様々なトピックについて、即興で意見を交換することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指定された場面における最適なコミュニケーション手段について、携帯電話、手紙、Eメール、SNSなどのから1つ選び、理由を付け加えてプレゼンテーションすることができる。(GA) 	3年後期	%	%	
Stage6	<ul style="list-style-type: none"> 第一印象が人の心理に与える影響についての講義を聞き、要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一印象の与える影響の強さについて書かれた英文を読み、初対面の人と接する際の留意点を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一印象を良くするために必要な要素(服装、髪型、アイコンタクト、ジェスチャーなど)について、複数の状況を想定し、それぞれにおける重要度について意見交換ができる。(GA) 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に与える第一印象に合わせた状況や状況に応じて、好印象を持てるように、自分の意見や経験をもとに、適切なアドバイスをすることができる。 	3年前	%	%	
A2	<ul style="list-style-type: none"> 短い簡潔な文章や、身近な話題に関する短い平易な文章を読み、必要となる情報を取り出すことができる。 身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができる。 身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができる。 身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができる。 身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄や出来事について、簡単な文や文を用いて即興で話すことができる。 身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができる。 身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が必要とする事柄について、メモやメッセージなどを書くことができる。 身近な事柄について、簡単な説明文を書くことができる。 聞いたことのある内容について、自分の意見や表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝えることができる。 				
Stage5	<ul style="list-style-type: none"> ラジオの悩み相談番組を聞き、やり取りの概要を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 悪い習慣から抜け出せずに悩んでいる人に対するアドバイスが書かれた英文を読み、要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 悪い習慣から抜け出せずに悩んでいると訴える友人に対し、改善策を考え、提案することができる。(GA) 	<ul style="list-style-type: none"> 悪習慣について悩んでいるというブログに対して、自分の経験等を参考に適切なアドバイスを書き込むことができる。 	2年後期	%	%	
Stage4	<ul style="list-style-type: none"> 本日の過ごし方についての対話を聞き、概要や要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 休暇を取ることに必要な理由について説明した文章を読み、概要や要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回の長い休暇と複数回の短い休暇のどちらが良いかについて、その理由を含めた意見交換をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国別の年間休暇日数が書かれた表を示しながら、共通点や相違点を説明することができる。 	2年前期	%	%	
Stage3	<ul style="list-style-type: none"> 教室内のエチケット(マナー)についての英文を聞き、要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 海外の高校生の学校生活(行事など)について書かれた短い平易な英文を読み、日本との違いを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の中で不快感を感じる場面について、やりとりをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真などを用いながら、来日する高校生に日本の学校生活(行事など)を紹介できる。(GA) 	1年後期	%	%	
A1	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができる。 日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができる。 ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において身の回りにある英語の中の文や単純な文を理解することができる。 平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができる。 身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができる。 相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれるなど)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質問応答をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な文や文を用いて、自分について話すことができる。 日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができる。 ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な文や文を用いて短く話すことができる。 				
Stage2	<ul style="list-style-type: none"> 「嘘をつくことについての良し悪し」についての対話を聞き、概要を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「嘘の種類」「人が嘘をつく理由」について書かれた英文を読み、概要を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 嘘をつかれた時にどんな気持ちだったかについて、簡単な表現を使ってやりとりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身にこれまでに起こった「嘘をつかれた体験」を紹介できる。 	1年後期	%	%	
Stage1	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介を聞き、趣味や性格などの情報を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 週末の出来事について平易な英語で書かれた物語を読み、あらすじを時系列で理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> どんなことをしているときに「楽しい」と思うか(例:入浴時、映画を見ているとき等)について、簡単な表現を使ってやりとりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の趣味を、写真や絵を提示しながら紹介することができる。(GA) 	1年前期	%	%	

不要なレベルは適宜削除して体裁を整えて下さい。※本サンプルではB2をカットしました。

達成率「外部」は外部検定等の外部指標を受けた者がいない場合は「-」を、受けたが達成した者がいない場合は「0%」と記入して下さい。年度末に記入し、CAN-DOリストの改善に

同一レベル内では、育成を目指す能力は各ステージ共通です。ここでは、A2レベルに達するには1年半(1年後期と2年前後期)を要すると想定し、3つのステージを設定しました。

「想定時期」とは「該当する生徒の6割が目標を達成すると想定される時期」。ただし、卒業時の学習到達目標の達成率は期待値でもよい。

達成率(内部)は、各ステージの適切な時期に、適切な課題(参考)CEFRレベルの概要にある「評価基準となる問いの具体例」等を参照してパフォーマンステストを行い、適切なルーブリックで能力を評価して把握し、記入する。

Goal Activityに達するための学習活動(small)

small task

主たる学習活動 Goal Activity

small task

small task

「単元」において、主たる学習活動であるGoal Activity(Goal Task)と各領域の学習活動との関連付けを行い、5領域をバランス良く育成します。

教科書(教材)は同じであっても、同期(ここでは後期)の間に学習活動のレベルをA1からA2に上げる場合は、このようにステージと想定時期を2つに分けて示します。

「ステージ」は前期後期または1, 2, 3の各学期と連動して区切ります。ここでは、前期後期で区切っています。生徒の実態に合わせて、適宜増減して下さい。

「1時間の授業」において、1つの領域の学習活動を行う場合もありますが学習効果を高めるために、2つ以上の領域を結びつけた学習活動も考えられます。例)「聞いたこと」について「話す」、「読んだこと」について「書く」

「ステージ」の区切りと連動。前期後期または1, 2, 3の各学期で区切ってください。ここでは、前期後期で区切っています。

外部指標対照表(別sheet)にあるものの中から外部指標として主に用いるものを任意に1つ選び、記入して下さい。

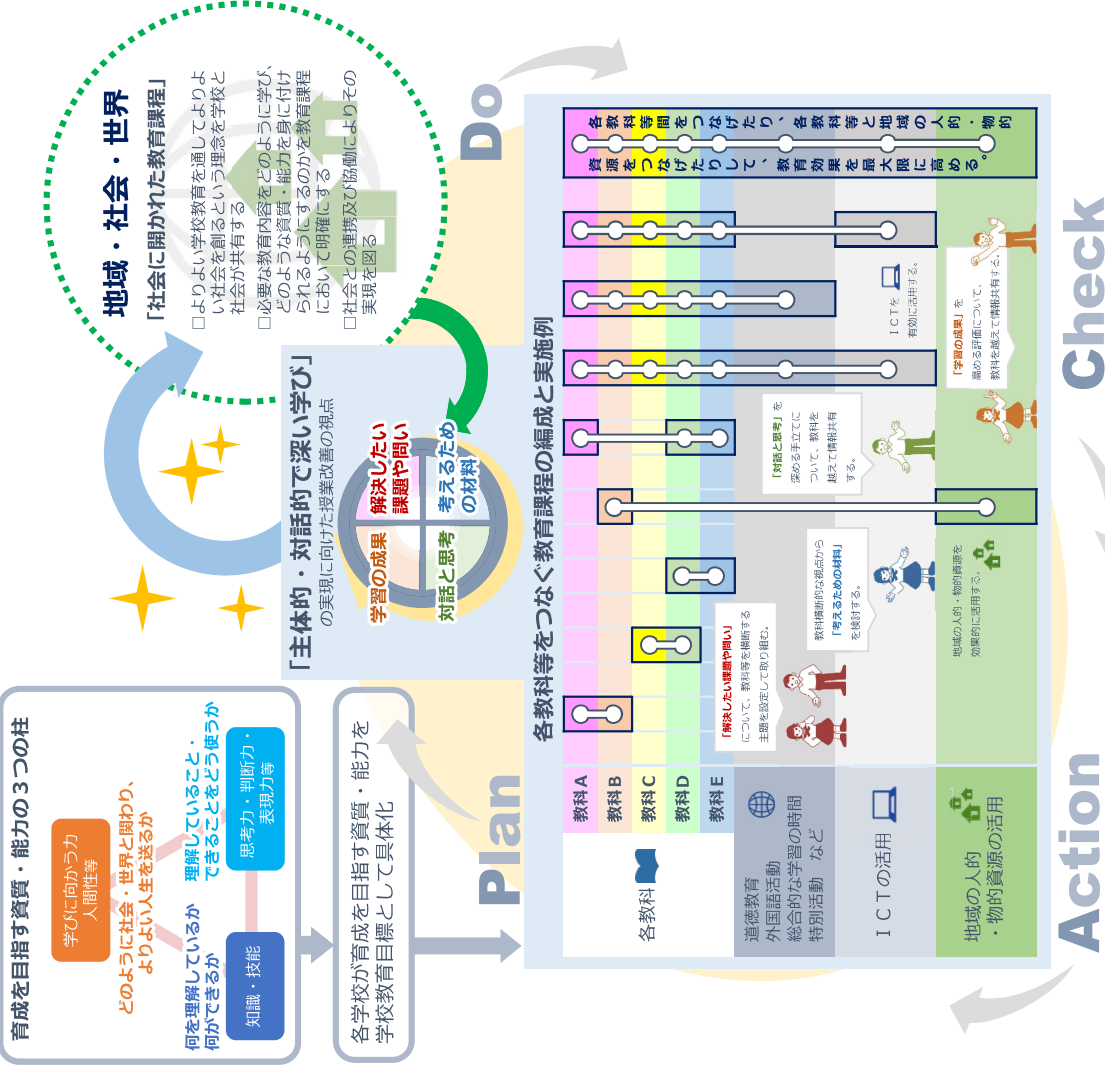
外部(外部指標名)

「カリキュラム・マネジメント」の実現

学校教育目標を実現するために、教育課程を編成し、それを実施・評価・改善していく〈学び 平成29年度版〉

＜小学校、中学校、高等学校、特別支援学校共通＞

教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す



上の図は、教育課程を軸にした、学校教育の改善・充実の好循環を図式化したものです。「社会に関わった教育課程」の理念のもと、子供たち一人一人の資質・能力を確実に育成していくためには、各教科等の学習とともに、教科横断的な視点で学習を成り立たせていくことが重要です。各学校が子供たちの姿や地域の実情等を踏まえつつ、校長を中心に、全ての教員が教科等や学年を越えて学校全体でPDCAサイクルを確立して教育活動に取り組むことが、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現することにつながります。

●当リーフレットは、「中央教育審議会教育課程企画特別部会編成部会整理（平成27年8月）」を基に作成したものを、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（高中）」（平成28年12月21日）」に基づいて平成29年度版に改訂しました。
●当リーフレットについてのお問い合わせは静岡県総合教育センター生涯学習企画課企画班（05337-24-9706）にお願いします。



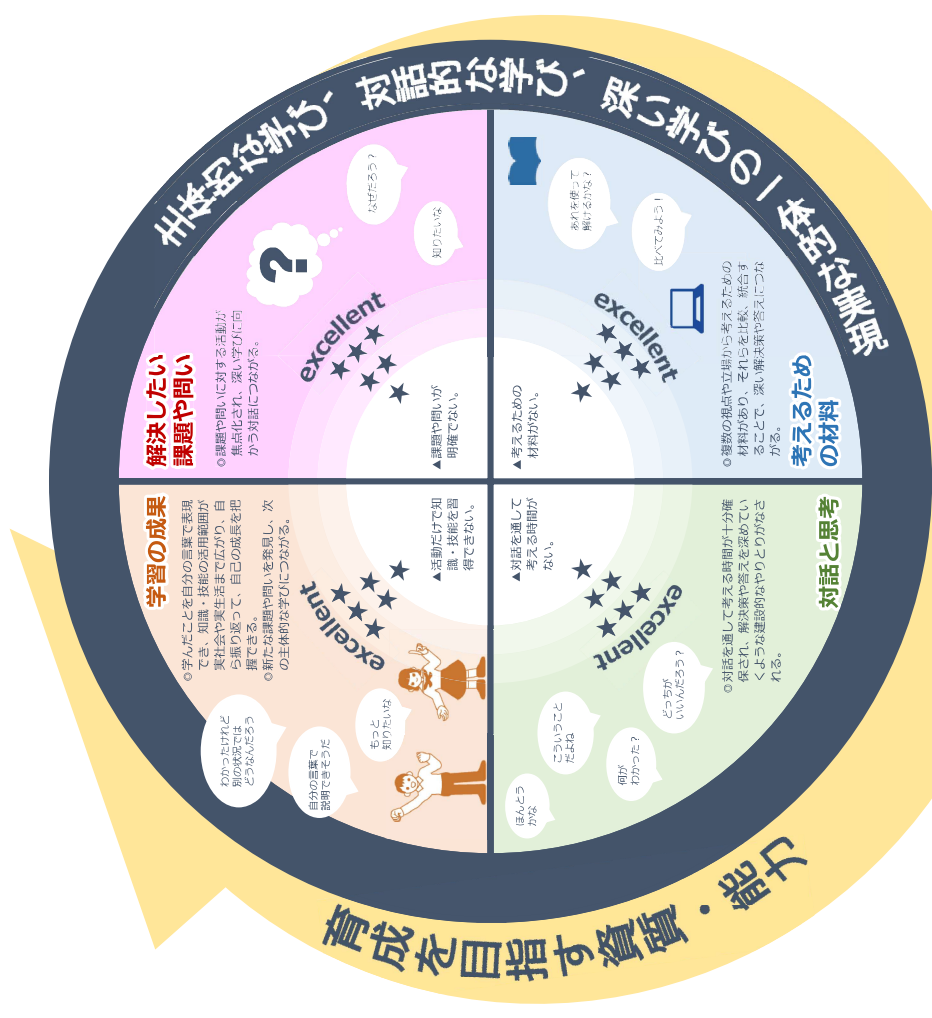
「主体的・対話的で深い学び」の実現

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

平成29年度版

＜小学校、中学校、高等学校、特別支援学校共通＞

新しい時代を切り拓く資質・能力を引き出し、高める

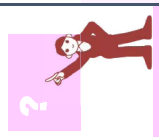

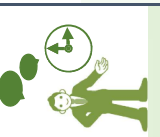
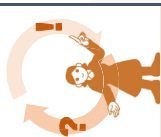


子供たちが「どのように学ぶか」に焦点を当て、
●解決したい課題や問い ●考えるための材料 ●対話と思考 ●学習の成果
を意識して授業を設計しましょう！

上の図は、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を図式化したものです。図の中の子供たちのつぶやきは、学びの過程で湧き上がってくる手控え（学びの実感）を表現しています。子供たち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくためには、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの過程を一体として実現することが必要です。そうした学びの過程を実現する一つの方法として、「解決したい課題や問い」、「考えるための材料」、「対話と思考」、「学習の成果」を意識しながら、授業設計することを提案します。目指す授業設計はexcellentです。詳細はリーフレットの中をご覧ください。



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業設計診断

次の表は、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、「アクティブ・ラーニング」の観点から授業設計を診断するものです。各項目とも「★」から「excellent」に向かって確認してください。子供たちが習得した概念や思考力等を、手段として活用・発揮させむから学習に取り組み、その中で資質・能力の活用と育成が繰り返されるような指導の創意工夫を促していくことが大切です。各教科等の特徴に応じた物事を捉える視点や考え（見方・考え）を働かせることが、学びの「深まり」の鍵になります。また、子供一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていくことが重要です。授業や単元の流れに子供の「主体的・対話的で深い学び」の過程が実現する授業設計を意識しましょう。

項目	★	★★	★★★	excellent
 <p>解決したい課題や問い</p> <p>△課題や問いは、解決に必要としない。 ▲課題や問いが明確ではない。</p>	<p>○課題や問いがあり、解決に必要とある。</p> <p>△課題や問いに対する活動の幅が広すぎて、活動が焦点化されにくい。</p>	<p>△課題や問いはあるが、解決に必要としない。</p>	<p>◎課題や問いに対する活動が焦点化され、深い学びに向かう対話につながる。</p>	
 <p>考えるための材料</p> <p>▲考えるための材料がない。 <small>材料とは、資料、道具、教材など教師が事前に準備しておくもの。</small></p>	<p>△考えるための材料はあるが、課題や問いに対する解決策が明示されていない。</p> <p>△材料や解決策を、事前に教師が説明してしまう。</p>	<p>◎複数の視点や立場から考えるための材料があり、それらを比較、統合することで、深い解決策や答えにつながる。</p>	<p>◎複数の視点や立場から考えるための材料があり、それらを比較、統合することで、深い解決策や答えにつながる。</p>	
 <p>対話と思考</p> <p>▲対話を通して考える時間がない。 <small>対話とは、課題や問いに基づいて考えが広がったり深まったりする言葉のやりとりのこと。</small></p>	<p>△対話を通して考える時間が確保されているが、各自がまとめた内容を紹介するだけである。</p> <p>△教師の過度な助言により、対話や思考が抑制されてしまう。</p>	<p>◎対話を通して考える時間が十分確保され、解決策や答えを深めていくような建設的なやりとりがなされる。</p>	<p>◎対話を通して考える時間が十分確保され、解決策や答えを深めていくような建設的なやりとりがなされる。</p>	
 <p>学習の成果</p> <p>▲活動だけで知識・技能を習得できない。</p>	<p>△知識・技能の活用範囲が狭い形の習得にとどまっている。</p>	<p>◎学んだことを自分の言葉で表現でき、知識・技能の活用範囲が実社会や実生活で広がり、自ら振り返って、自己の成長を把握できる。</p>	<p>◎学んだことを自分の言葉で表現でき、知識・技能の活用範囲が実社会や実生活で広がり、自ら振り返って、自己の成長を把握できる。</p>	

よりよい学級と社会を創る教室文化の診断

各教科等による「主体的・対話的で深い学び」の積み重ねにより、子供の資質・能力が育成され、多様な他者と協働して課題を解決していく教室文化（子供たちが学級において共有している行動様式や生活様式）が醸成されているかを診断してみましょう。「学級の全員が、互いに互いのことを、よりよい学級や社会を創るための、学びを深める大事な仲間と思うようになっている」は、特に成熟した学級と言えます。子供たちが互いの異なる考えを尊重し、これからのよりよい社会を様々な人々と共に創ることができるようにしたいものです。

	いない	0	1	2	3	いる
 <p>教室における安心感</p> <p>1 間違いを言ってもいいという雰囲気がなく、安心して自分の意見を言えるようになっている。</p> <p>2 自分の意見を相手にわかってももらいたいと思い、発言するようになっている。</p> <p>3 相手がどんな意見をもっているのかに関心をもち、その意見を聞こうとするようになっている。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
 <p>よりよい学級を創る学びの態度</p> <p>4 資料から情報を単に読み取るだけでなく、それを解釈するようになっている。</p> <p>5 わからないことをそのままにせず、積極的に質問するようになっている。</p> <p>6 与えられた課題や問いに答えるだけでなく、新たな課題や問いを発見するようになっている。</p> <p>7 学んだことを日常生活や社会と関連付けて生かそうとするようになっている。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

学び合い 支え合う仲間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学級の全員が、互いに互いのことを、よりよい学級や社会を創るための、学びを深める大事な仲間と思うようになっている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「主体的・対話的で深い学び」とは何か

(平成28年12月21日「幼・小・中・高」各教科等及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」より)

- 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特徴に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

■ 研究協力者

聖心女子大学 文学部教育学科 教授 静岡大学大学院教育研究科附属学習科学研究所教育センター (RECLS) 学外協力研究員

このリーフレットには、児童生徒一人ひとりが、自分なりに各教科を好きになり深く学び続けたいというように、学習に関する科学的知見が込められています。是非、各先生の授業づくりや校内研修に活用して下さい。例えば、研修等で学習指導案を作成するとき複数人で授業設計診断を用いてチェックすることで、より深い学びを引出す学習指導案になるでしょう。そのときに、具体的に児童生徒が「どのような対話をしようか」をコミュニケーションしてみたい。そして授業終了時に、児童生徒たちがどのような「ことば」で語るのだろうかを具体的に検討し、それを評価指標にすることが、指導と評価の一体化につながるでしょう。児童生徒にとって一つの授業は部品であり、各教科や行事を横断的・総合的に学んでいきます。そのような視点から、ICTや地域の資源を活用しながら、各教科の内容や学び方が分析され、一体的に深く学んでゆける環境をいかに構築するかの視点が重要となるでしょう。

東京大学 高大接続研究開発センター 教授 本学新学術支援センターアジア推進機構 (CoREF) 文部科学省 国立教育政策研究所 フォロワー

白水 始 先生

平成29年に新学習指導要領が公表されました。そこでは、学校教育において児童生徒に育む資質・能力の「三つの柱」が「個別の知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」と整理され、これを引き出しながら伸ばしていく「主体的・対話的で深い学び」の重要性が指摘されています。その公表に合わせて、2年目を迎えたこのリーフレットも改訂されました。先生方の学校現場では、この1年間どのような「主体的・対話的で深い学び」が積み重ねられたでしょうか。すべての子どもたちが学んだことの意味が分かって先を担わせるような授業、教科等の本質をつかみながら、その見方・考え方も身に付け、自分のその先の学習を一層深く面白くするような授業はできてきたでしょうか。子どもたちが学びほび学ぶほど自分らしさが出てきて、仲間と違う自分のよさを追求できるような環境は用意できたでしょうか。それと同じように先生方の学びも多様に豊かになってきていますでしょうか。多様性を醸成するためには、共通言語が必要です。このリーフレットを基にした先生方の教育実践が、そうした共通言語の役割を果たすことを期待します。